

2024年度（第49回）学術研究振興資金 学術研究報告

|           |                                                         |       |                              |     |
|-----------|---------------------------------------------------------|-------|------------------------------|-----|
| 学 校 名     | 法 政 大 学                                                 | 研究所名等 | 法 政 大 学<br>大 原 社 会 問 題 研 究 所 |     |
| 研 究 課 題   | 日本資本主義と女性の社会的環境に関する総合的研究<br>ー「平塚らいてう資料」のデジタルアーカイブ構築を中心ー |       | 研 究 分 野                      | 文 学 |
| キ ー ワ ー ド | ①デジタルアーカイブズ ②ジェンダー ③史料研究 ④近現代史 ⑤社会運動                    |       |                              |     |

○研究代表者

|       |                   |     |                      |
|-------|-------------------|-----|----------------------|
| 氏 名   | 所 属               | 職 名 | 役 割 分 担              |
| 榎 一 江 | 大 原 社 会 問 題 研 究 所 | 教 授 | 近代日本の女性労働に関する実証研究の推進 |

○研究分担者

|           |                              |                 |                       |
|-----------|------------------------------|-----------------|-----------------------|
| 氏 名       | 所 属                          | 職 名             | 役 割 分 担               |
| 差 波 亜 紀 子 | 日 本 女 子 大 学 文 学 部            | 教 授             | 女性知識人、平塚らいてうに関する研究の推進 |
| 北 口 由 望   | 法 政 大 学<br>HOSEI ミ ュ ー ジ ア ム | 准 教 授           | デジタルアーカイブ、展示に関する研究担当  |
| 堀 川 祐 里   | 新 潟 国 際 情 報 大 学 国 際 学 部      | 講 師             | 女性労働をめぐる運動と思想に関する研究担当 |
| ファヨル入江容子  | 甲 南 大 学 文 学 部                | 講 師             | 女性間の階級問題に関する日仏比較研究担当  |
| 古 俣 達 郎   | 明治大学学術・社会連携部<br>博 物 館 事 務 室  | 特 別 嘱 託         | デジタルアーカイブ、展示に関する研究    |
| 井 上 直 子   | 法 政 大 学<br>大 原 社 会 問 題 研 究 所 | 兼任研究員           | らいてう研究および展示・シンポジウム担当  |
| 堀 内 暢 行   | 法 政 大 学<br>大 原 社 会 問 題 研 究 所 | 研究補助員<br>( RA ) | 目録、デジタルアーカイブの構築に関する研究 |
|           |                              |                 |                       |
|           |                              |                 |                       |
|           |                              |                 |                       |

# 日本資本主義と女性の社会的環境に関する総合的研究 —「平塚らいてう資料」のデジタルアーカイブ構築を中心に—

## 1. 研究の目的

本研究は、近代日本における女性の社会的環境を総合的に把握することを目的とする。具体的には、女性解放・平和運動など社会運動に邁進した平塚らいてう（奥村明 1886-1971）に焦点を当て、没後 50 年を機として 2021 年度に法政大学大原社会問題研究所が受贈した「平塚らいてう資料」デジタルアーカイブの構築・公開を通して、実証研究を推進する。

### (1) 「平塚らいてう資料」デジタルアーカイブの構築

「平塚らいてう資料」とは、NPO 法人「平塚らいてうの会」所蔵資料と孫の奥村直史家所蔵資料を統合したものである。前者はらいてう自伝の編纂に従事した小林登美枝が保管していた資料を会が引き継いだものであり、もともと奥村家にあったものをらいてうの了解をえて帯出したものと推定される。会では『平塚らいてうの会紀要』などでその一部を紹介してきたが、十分な研究がなされてきたわけではない。後者は、奥村家に残された資料で、奥村直史は孫の立場から『平塚らいてう——その思想と孫から見た素顔』平凡社、2021 年を刊行し、らいてう研究を行ってきたが、一般には公開されていない。もともと一体であったこれらの資料をあわせて整理・公開し、広く学術研究の基盤を整備することが本研究の課題である。

### (2) 日本資本主義の成り立ちが女性の社会的環境に与えた影響についての研究

そのうえで本研究が追究するのは、日本資本主義の成り立ちが女性の社会的環境にどのような影響を与えたのかという問題である。従来、近代日本の女性史は女性解放運動の担い手に焦点を当て、平塚ら知識人の論考を分析対象としてきた。一方、日本資本主義の発展を底辺で支えた女性労働者は、ほとんど資料を残さず、ストライキ等の行動が記録されるのみであった。しかしながら、平塚らが女性だけの手による文芸誌『青鞥』を創刊したのは女性工場労働者の保護を目的とする工場法が公布された 1911 年であり、国家による母性保護は両者に共通する重要なテーマであった。この知識人層と労働者層との関係に焦点を当てるのが、本研究の特徴である。

1918 年から 19 年にかけて、国家による母性保護を訴えたらいてうに対し、女性の経済的自立を主張する与謝野晶子が批判し、のちに山川菊栄らも加わって「母性保護論争」が展開されたことはよく知られている。実際、らいてうは、1919 年に名古屋の紡績工場を視察し、その「悲惨な光景」に直面して「これが地獄でなくて何であろう」と記し、また、市川房枝らと新婦人協会を 1920 年に設立して婦人参政権運動を展開する際、その機関誌『女性同盟』の創刊にあたって、「将来母となるべき多くの娘たちが工場において資本家の利己心の犠牲となって、彼女の若々しさと愛情の豊かさと彼女にとって何より大切な母性とを破壊されねばなりません」と嘆き、女性の地位向上を訴えた。このように、女性解放を目指す女性知識人の多くは、悲惨な境遇にある女性として工場労働者に言及し、彼女らの言説が女性の声として流布するとともに政策に一定の影響を与えたと考えられる。こうした女性知識人の言説と女性労働者の現実とを切り結び、近代日本の知識人層と労働者層とを包括した女性の社会的環境に関する学術的な研究を推進するのが本研究の目的である。

## 2. 研究の計画

本年度は、平塚らいてうが生きた時代を通して日本資本主義と女性の社会的環境について検討してきた本研究の成果をまとめる。具体的には、以下のとおりである。

- ① デジタルアーカイブの公開：公開後のメンテナンスを含めた運用方法を確立する。
- ② 展示会：厳選した貴重な原資料を展示会で紹介し、一般に公開する。その際、日英両語の解題付き図録を作成して国内外の関係機関に配布する。
- ③ シンポジウム：「日本資本主義と女性の社会的環境」について、平塚らいてう関係資料を通

して考えるシンポジウムを開催し、ゲストスピーカーを招聘して議論を行う。この議論を踏まえ、『大原社会問題研究所雑誌』で特集を組む。

④国際会議：フランス・パリで開催される 2024 年度労働史研究機関国際協会（IALHI：International Association of Labour History Institutions）の年次大会で「平塚らいてう関係資料」を紹介し、その意義について議論を深める。

### 3. 研究の成果

本研究は、知識人層と労働者層との関係に焦点を当て、「平塚らいてう資料」を通して、日本資本主義の成り立ちが女性の社会的環境に与えた影響を明らかにした。とりわけ差波亜紀子は、らいてうが記した手紙を分析し、自身が雇用する女中の健康問題を通して、彼女らが従事した工場労働の労働環境に関心を寄せたことを解明した。知識人層と労働者層との結節点となった女中の存在に着目した貴重な研究成果と言えよう。加えて、以下の成果を得た。

#### ①デジタルアーカイブの公開

本研究は、貴重な資料の利用を促進するために、デジタルアーカイブを構築することをめざした。総撮影コマ数 34,322 点の資料をどのように公開するかを検討し、デジタルアーカイブアプリケーションとして AtoM (Access to Memory) を採用することとした。目録データの検索は研究所ウェブサイトで可能だが、諸般の事情により、デジタルアーカイブについては研究所内 PC での公開とした。

#### ②展示会

法政大学大原社会問題研究所所蔵平塚らいてう関係資料公開記念展示「らいてうと婦人運動の時代」を 2024 年 8 月 21 日から 10 月 31 日まで、法政大学多摩キャンパス（図書館・研究所棟 5 階）大原社会問題研究所展示コーナーで開催した。また、日英両語の解題付き図録を作成して、来場者や国内外の関係機関に配布することができた。

#### ③シンポジウム

法政大学大原社会問題研究所所蔵平塚らいてう関係資料公開記念シンポジウム「らいてうと婦人運動の時代」を 2024 年 10 月 12 日（土）に法政大学市ヶ谷キャンパス大内山校舎 Y406 で開催した。第 1 部の基調講演では、湯澤規子法政大学人間環境学部教授に『『焼き芋とドーナツ——日米シスターフッド交流秘史』をめぐって』と題して講演していただいた。第 2 部の平塚らいてう資料研究会報告では、メンバーの井上直子、堀内暢行、差波亜紀子が報告を行い、北口由望が司会を担当した。この議論を踏まえ、『大原社会問題研究所雑誌』797 号、2025 年 3 月で特集「平塚らいてう関係資料」を組むことができた。ここでは、資料整理とデジタルアーカイブ構築に関する論考に加え、資料に即した分析を発表することができた。

#### ④国際会議

法政大学大原社会問題研究所は日本で唯一、労働史研究機関国際協会（IALHI: International Association of Labour History Institutions）に加盟している。これは、各国の労働史に関するリサーチャー、ライブラリアン、アーキビストが集まる団体で、フランスで開催された第 54 回の年次大会のテーマが「活動家の遺物」であったため、平塚らいてうの活動と残された史料について報告を行うとともに英語版の展示図録を配布することができた（9 月 12 日、於パリ・ナンテル大学）。

### 4. 研究の反省・考察

#### (1) デジタルアーカイブの公開

本研究は、当初からデジタルアーカイブの構築を目指し、広く学術研究の基盤を整備することを目指した。しかしながら、サーバ確保の問題に加え、資料の権利関係について寄贈者の許諾のみで公開することができない記事や私信等の取扱いに懸念が残るため、まずは研究所内の PC 上で公開することとした。研究所ウェブサイトで資料目録の検索は可能なので、関心を持った方は

ひ研究所に来所して閲覧していただければと思う。

## (2) シンポジウム

本研究は、2023 年度より共同研究のメンバーを増員することによって、日仏比較など国際比較の視点を取り入れて共同研究を進めてきた。その成果をシンポジウムで報告し、『大原社会問題研究所雑誌』の特集でも論考を掲載する予定であったが、やむを得ない事情により、シンポジウム当日の登壇がかなわず、その論稿を掲載することもできなかった。

## 5. 研究発表

### (1) 学会誌等

- ①榎一江「特集にあたって（特集平塚らいてう関係資料）」『大原社会問題研究所雑誌』797号、2025年3月、1-3頁。
- ②堀内暢行「現代個人アーカイブズの整理・公開方法に関する一試論——平塚らいてう関係資料の場合」『大原社会問題研究所雑誌』797号、2025年3月、4-13頁。
- ③北口由望「『平塚定二郎聞き書き』について」『大原社会問題研究所雑誌』797号、2025年3月、14-23頁。
- ④差波亜紀子「女中を通して見出された女工労働環境問題」『大原社会問題研究所雑誌』797号、2025年3月、24-32頁。
- ⑤井上直子「『我等の家』での消費組合運動と平塚らいてう——平塚らいてう関係資料を用いて」『大原社会問題研究所雑誌』797号、2025年3月、33-48頁。

### (2) 口頭発表

- ①ENOKI Kazue, Archiving Artifacts Related to the Japanese Feminist Activist Hiratsuka Raicho, The International Association of Labour History Institutions (IALHI) 第54回大会（9月12日、於パリ・ナンテール大学）
- ②榎一江「趣旨説明」（「法政大学大原社会問題研究所所蔵平塚らいてう関係資料公開記念シンポジウム」10月12日、於法政大学市ヶ谷キャンパス大内山校舎Y406）
- ③井上直子「平塚らいてう関係資料公開記念展示「らいてうと婦人運動の時代」のご紹介」（同上）
- ④堀内暢行「関係資料の整理とデジタルアーカイブの構築について」（同上）
- ⑤差波亜紀子「らいてうと家事労働」（同上）

### (3) 出版物

- ①法政大学大原社会問題研究所平塚らいてう資料研究会編『法政大学大原社会問題研究所平塚らいてう関係資料公開記念展示 らいてうと婦人運動の時代』（展示図録日本語版、英語版）2024年。
- ②榎一江「史料散歩——らいてうと婦人運動の時代」『日本歴史』（掲載予定）。